

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

東畑中学校区 校番11 学校名 東畑中学校

a 学校教育目標		賢く 優しく 逞しく — 進取 礼節 求学 —		b 経営理念 ミッション・ビジョン		〈ミッション〉 (学校の使命)		「知・徳・体」の基礎・基本が徹底され、自分や学校・郷土を誇りに思える生徒の育成					
						〈ビジョン〉 (将来の学校像)		・確かな学力・豊かな心・健やかな体を育み、安全・安心で信頼される学校 ・生徒が行きたいと思う学校、教職員が働きたいと思う学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域が誇りに思う学校					
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点		小中一貫教育を基盤として、小中共通の学校教育目標のもと研究や取組を推進している。昨年度は、学力向上や自尊感情・自己有用感の向上を図るために、発問の工夫を取り入れた「考える授業づくり」の研究や中学校区で設定した「学びのすずめ」による指導、協働してやり切る体験と適切な肯定的評価の実施等に組織的に取り組んできた。その結果、自尊感情・自己有用感の向上においては一定の成果が得られた。しかしながら、学力調査等の結果においては課題が残り、個に応じた支援・指導をはじめとする学力向上に向けてのさらなる研究の充実を図ることや「考える授業づくり」の基盤となる自己指導能力を身に付けさせる取組の充実を図る必要がある。これらのことから、今後一層の教育活動の深化を図っていく。 ①学力の向上を図る教育活動の推進 ②自尊感情・自己有用感向上のための取組の充実 ③基本的生活習慣の定着と体力向上の推進 ④安全で安心な教育環境の整備と業務改善											
育成を目指す資質・能力		知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・感謝・貢献											
評価計画(中期経営目標を設定してから 1 ・ ② ・ 3 年目)								自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期				
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価		
***	① 学力の向上を図る。	(1)基礎的・基本的な学力を定着させる。	個別最適化された学びの環境づくりを推進する。(授業の流れ(「授業プログラム」)の提示、ICT教材等の活用、研修の充実等)	学力調査、定期試験(5教科)における通過率30%未満の生徒の割合	15%以下								
				「課題などの提出物を期限までに提出している」と回答する生徒の割合	80%								
				学習規律の徹底と教室環境整備をする。	85%								
				「学習規律を守らせている」と回答する教員の割合	100%								
			(2)個を大切にする「考える授業づくり」を推進する。	研修等の充実を図り、授業力向上を目指した組織的な授業改善を推進する。	80%								
					90%								
**	② 自尊感情・自己有用感を高める。	(3)自己指導能力の育成を図る。	「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を実践する。 生徒指導の三機能を生かした集団作りと適切な評価を実施する。	「規律(あいさつ・返事・忘れ物・着ベル・聞く態度等)を守っている」と回答する生徒の割合	95%								
				「一人一人の生徒に応じた活躍の場や責任を持たせる場を与えている」と回答する教員の割合	100%								
				「学校生活の中(係・委員会活動、行事、部活動、清掃活動等)で役割を果たそうとしている」と回答する生徒の割合	90%								
				「自分にはよいところがある」と回答する生徒の割合	85%								
				「自分の良さはまわりの人から認められている」と回答する生徒の割合	75%								
				*	③ 基本的生活習慣の定着と体力の向上を図る。	(4)規則正しい生活習慣の定着と安全への意識を高める。	3点固定(早寝・早起き・朝ごはん)とメディアコントロールの指導の充実を図る。(「生活づくり運動」実施) 多様な想定での避難訓練の実施と家庭や地域と連携した防災教育の充実を図る。 体育科授業において、体力づくりに係る運動を毎時間実施する。	生活振り返りカード「メディアに関する約束が守れた」と回答する生徒の割合	85%				
「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」と回答する生徒の割合	100%												
新体力テスト中学校区の課題種目(20mシャトルラン)の数値目標達成の割合	70%												
業務改善	東畑中学校に勤務してよかったと感じることができる職場環境づくりを行う。	(5)生徒と向き合う時間の確保をする。	会議や研修の開催日や内容を精査する。	「生徒と向き合う時間が確保されている」と感じる教員の割合	90%								
		(6)長時間勤務の削減を図る。	定時退校日の励行と習慣化を図る。	時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合	70%								

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60